

傍

今や日本の資本主義は其崩壊期たる帝國主義時代に入り資本家階級は最後の狂暴を發揮して露骨に吾等無産階級の擡頭を彈圧せんとしつゝある温情の仮面を被れる彼住友も其の例に漏れるものでない吾等にはありゆる道徳に抗して組合を組織するや時に暴力的干渉あり時に金力に依る壞事あり加ふるに地理的不便と相俟つて組合維持の困難なることは名状すべからざるものがありました然も吾等は一歩も退かず敢然として戦ひ續けて来ました。今回も事件發生當時に於ても住友は虚言を弄して労働者を瞞着し數百名を驅つて組合事務所を襲撃せしめる。暴挙を敢行したために襲撃者側から八名組合側から八名の同志が檢査せられる情勢となつたのであります。此暴虐を使喚したる張本人鷺尾労働課長は豺狼の如き慘虐暴戾、压制振りを發揮して遂に七十有余名の公傷者に一齊に治療打切の通告を發し同時に敵首の通告を發したのであります。之れ明かに住友の本性を暴露して爭議團に對して調度の物品配給を打ち止め我等を飢餓に陥れんとする術策に他ならぬのであります。若し斯の如き暴挙に屈せんか吾等は永遠に奴隸たるに甘んじなれはならないのであります。吾等は断じて屈することは出来ぬ。吾等は最後の一人となるまで飢餓に死に至るまで断々として抗争せなければならぬ。

会房働者諸君、吾等をして階級戦線の勇敢なる兵卒たらしめよ。山には雪が降つてゐる。朔風に晒されて爭議團員は布團もなく寝もやられぬ有様である。餓は眼前に寒さは後にヒシヒと迫つてゐる。同志諸君、吾等をして戦はしめよ。少しもよい物質的の援助を

お願ひ致します。
一九二五年十二月二十八日

愛媛縣新居郡角野村
別子 鋦山 爭議團
別子 鋦山 支部